

HOSEI

Communication Magazine

4

2021



HOSEI EYE

法政の「いま」をお伝えします。

第139回 学位授与式

3月24日(水) 日本武道館



田中優子総長[®]は告辞で「さまざまな困難に遭遇したこの一年で得たものを、新たな場の創造に生かしてください」と卒業生に語りかけた。

3月24日(水)、第139回学位授与式が増改修工事を終えた日本武道館(千代田区北の丸公園)で行われました。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、式典の参加は卒業生のみとなりましたが、桜の花が満開の北の丸公園内には、午前の部、午後の部合わせて約5千人の参加者が集いました。式典の後は市ヶ谷キャンパスで記念撮影をする卒業生たちや、「よき師よき友」と共に新たなスタートを喜び、別れを惜しむ様子が見られました。卒業された皆さんのご活躍をお祈りします。

【午後の部】



卒業生を代表し答辞を述べる菅谷緒美さん(人間環境学部)

【午前の部】



卒業生を代表し答辞を述べる坂本裕樹さん(情報科学部)

【司会】



午前・午後とも司会を務めた卒業生の小沢光葵さん(法学部・左)西島芽さん(社会学部・右)



※田中優子総長は2021年3月にて任期満了により退任しました。



HOSEI 4 Contents

communication magazine 2021

02 HOSEI EYE 第139回学位授与式 3月24日(水) 日本武道館

03 特集 ようこそ法政へ 2021年新生へのメッセージ

04 巻頭言 法政大学総長 廣瀬克哉

「この時期に大学生であることを貴重な機会だと受けとめて過ごしてください」

06 15の学部長から新生のあなたへ

法学部長：中野勝郎／文学部長：安東祐希／経済学部長：廣川みどり／社会学部長：島本美保子／経営学部長：金容度／国際文化学部長：松本悟／人間環境学部長：武貞裕彦／現代福祉学部長：水野雅男／情報科学部長：藤田悟／キャリアデザイン学部長：荒川裕子／デザイン工学部長：福井恒明／理工学部長：木村光宏／生命科学部長：山下明泰／GIS(グローバル教養学部)長：新谷優／スポーツ健康学部長：鬼頭英明

12 卒業生インタビュー

「戦略と起業家精神で 同志と共に日本の未来を変えたい」
デロイトトーマツ コンサルティング合同会社
戦略コンサルティング部門 執行役員 棚橋 智さん

14 ESSAY

「職場に力を与える管理職を増やすために」
キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科 教授 坂爪 洋美

16 HOSEI PHRONESIS

「細胞の再構成をテーマに 生物のメカニズム解明に挑戦」
生命科学部生命機能学科 教授 金子 智行

18 MY CAMPUS, MY LIFE

スポーツ健康学部スポーツ健康学科 伊藤真紀准教授ゼミ/機械研究会

20 Message 「今を必死に、かけがえない経験を」

文学部地理学科4年 保泉 杏介さん(法政大学応援団第96代団長)

21 THE SCENE VOL.127 馬術部

22 後援会だより 「新生保護者の皆さまへ」 ほか

26 HOSEI ミュージアム VOL.017

「法政陸上の開拓者たち～法政初のオリンピック～大木正幹～」

27 校友会だより

28 HOSEI TOPICS

30 2020年度自由を生き抜く実践知大賞1

31 BOOKS

COVER 多摩キャンパス 撮影：平野太呂

陸上競技場の横には大きな桜の木が並んでいて、3月下旬には満開の桜並木が見られます。咲き乱れる桜の下を自主トレーニングをする陸上競技部の学生が走り抜けていきました。

皆さん、法政大学への入学おめでとうございます。

2021年度は、コロナ禍の中での入学となりました。今春、高等学校を卒業した人は、高校3年生への進級目前からコロナ禍による一斉休校となり、慣れないオンライン授業を経験した人も多いと思います。大学受験の準備をする時期に普通の授業ができないというところに焦りを感じる場面もあったでしょう。入学試験はちゃんと実施されるのか、入試の時期に自分が感染してしまったりどうしよう、といった不安もあったことと思います。それを乗り越えて大学に入学する機会を獲得された皆さんに敬意を抱きつつ、心から歓迎したいと思います。

巻頭言

法政大学総長

廣瀬克哉

この時期に大学生であることを
貴重な機会だと受けとめて
過ごしてください

と出会い、利害関係や生活の必要とは離れた自由な立場で、さまざまな交流の機会を持つことができる。それが法政大学の学生生活で得られる価値の中でも重要な一つです。しかし、それが例年のような形ではできません。不満や落胆の気持ちを持つのは自然なことであり、その感情を無理に押し殺す必要もないと思います。

ただ、もともと人の生活というものには、何らかの制約の下で、自分にとって幾分か不本意な条件を強いられる中で営まれています。それに対して、嘆くことばかりに時間やエネルギーを費やしてしまうのも、制約条件の中でもできる限りの工夫を凝らして、与えられた環境下で最大限可能なことを追求するのも、自分の意思で選択できるこ

とです。制約にただ圧倒されてしまうのではなく、その中でも何とか自分の目指すものを実現しようとする知恵こそが、法政大学憲章に掲げられた「自由を生き抜く実践知」に他なりません。このコロナ禍という極端な事態に直面したときに、生活のための必要に直面して、余裕なく目前の課題をこなすしかない、という立場にある人も少なくありません。大学生という立場は、物事を深く考えることができる力と時間を与えられ、それを互いに交換し合って自分の思考をさらに深めていくための交流の相手に恵まれ、そこにさまざまな観点からヒントを与えてくれる教員へのアクセスが確保されています。この時期を、大学生という立場で迎えられることを機会と捉え、こんな時期でなければ磨けない「実践知」を磨く大学生活を過ごしてください。法政大学の教職員は、それを全力で支え、応援していきます。



法政大学へ、ようこそ。



Hirose Katsuya

1958年生まれ。法学部教授。1981年東京大学法学部卒業、1983年同大学院法学政治学専攻修士課程修了、1987年同大学院法学政治学専攻博士課程単位取得退学、同年同大学院法学博士学位取得。同年法政大学法学部助教授、1995年同法学部教授。2008～2011年度総合情報センター所長、2012～2013年度法学部長等歴任。2012年度～現在学校法人法政大学評議員、2014～2020年度学校法人法政大学常務理事、2017～2020年度法政大学副学長、2021年度～現在法政大学総長。

15の学部長から新入生のあなたへ



Tama Campus



Ichigaya Campus



Koganei Campus

法学部

クリオ待つ門へようこそ

法学部長 中野 勝郎 教授

入学おめでとうございます。
 ミネルヴァとクリオ。どちらも女神です。
 ミネルヴァは「知恵」を象徴しています。ために
 大学の紋章によく使われています。しかし、
 私が紹介したのは「戦い」の神でもある彼女
 ではなく、クリオです。神々の中でも最も内
 気な女神。ある歴史家は「modesty」
 という言葉を使って彼女を紹介しています。
 内気で慎み深いゆえに、クリオは、人間
 の行ってきたことを「継ぎ目のない織物」と
 して捉え、その織物を乱暴に引き裂くこと
 ないように、人間を理解しようとします。そ
 の織物は、さらびやかな糸だけではなく、目
 立たない細かい糸でも織られています。
 法学部で学んでほしいのは、あなたもまた、
 人間や社会という織物を、とりわけ、細かい糸
 を見逃さないようにしながら丁寧に観察し分
 析し、そして、それに関わっていく技を手
 に入れることです。
 ようこそ暖かき門へ。



Nakano Katsuro
 1958年鹿児島県生まれ。1982
 年立教大学法学部卒業。1989
 年東京大学大学院法政学政治学
 研究科単位取得退学。博士(法
 学)。放送大学助教授、北海
 道大学教授を経て、2000年本
 学兼任。専門はアメリカ政治
 史。

文学部

普遍の真理を求めて

文学部長 安東 祐希 教授

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。
 皆さんを心より歓迎いたします。
 大学生になって、さあこれから何をしよう
 と考えていますか。好きな本をたくさん読み
 たい、部やサークル活動に取り組みたいなど、
 それぞれ希望があることでしょう。中でも、
 深く学問を学んでゆきたいという方も多いか
 と思います。
 文学部には哲学科、日本文学科、英文学科、
 史学科、地理学科、心理学科があり、変化に
 富む学問分野で教育・研究が行われています。
 分野は多岐にわたりますが、どこにおいても
 基礎学問として普遍の真理を求めています。
 個々の事象を分析しながらも、あまねく成り
 立つ原理を探しているのです。
 法政大学は、また文学部は、皆さんが自身
 の興味に従って学んでゆく場を提供します。
 各学科で、学科・学部を超えて法政大学で、
 さらに留学制度を利用するなど広く国内外
 で、大いに学ばれることを期待しています。



Andou Yuuki
 1965年東京都生まれ。東京工
 業大学理学部卒業。筑波大学
 大学院数学研究科修了。博士
 (数学)。1995年本学第一教養
 部兼任。2003年より文学部哲
 学科。2005～08年学生部長。
 専門は数理論理学(証明論)。

経済学部

世界を見る目を養おう、 そしてより良い人生を生きよう！

経済学部長 廣川 みどり 教授

経済・社会をどのように眺めたらよいか。
 自分はどういう選択を行ったらよいか。
 それが経済・社会をどのように変えていくだ
 ろうか。そうした仕組みについての考え方を
 提供するのが経済学です。
 では、この状況下でどのような政策が正し
 いか——というと、がっかりさせてしま
 うかもしれませんが、現実はいつも流動的であ
 ること、未曾有の事態についての正解は誰も
 知りません。
 とはいえ、先人の積み上げた知見を基に考
 えることは大きく役立ちます。例えば、10万
 円の給付金は困っていない人にも回りますが、
 困っている人の生活を迅速に支えるという意
 味では大切です。ただ、これにより国の借金
 の総額は増え、将来の負担にもなるでしょう。
 それらの知識をもとに、皆さんが、自分で考
 えるためのツールを経済学は提供します。そ
 れは皆さんの人生の羅針盤となるでしょう。
 ようこそ、経済学へ！ 続きは教室で！



Hirokawa Midori
 1957年神奈川県生まれ。東京
 大学教育学部卒。一橋大学大
 学院経済学研究科修士課程修
 了および同研究科博士後期課
 程単位取得退学。博士(経
 済学、一橋大学)。1991年本
 学兼任。個人の意思決定が社
 会や制度に与える影響につい
 て(また逆の影響についても)
 広く関心を寄せる。

社会学部

疑う力

社会学部長 島本美保子 教授

皆さんご入学おめでとうございます。私たちはこの一年間、コロナ禍により、これまでの常識が一足飛びに変化していく姿を目の当たりにしました。コロナ以外だって、高齢化社会、社会格差の拡大、地球環境問題など問題は山積みです。社会学部はさまざまな社会課題を知的アプローチで分析する学部です。これらの問題の本質を見抜くためには、まず「疑う力」つまり批判的思考を磨くことが大切です。「疑う」という強い言葉が似つかわしいほどに、今日世の中はフェイクニュースであふれています。批判ばかりで建設的でないのではないかと、といった批判への批判も、ネットにあふれています。しかし批判は第一歩であって、それと一緒にオルタナティブな道筋を示せばよいのです。これからはフェイクに踊らされない「疑う力」「調べる力」「考え抜く力」が社会をより良く生き抜くための基礎力となります。ぜひ私たちと一緒に、この力を磨いていきましょう。



Shimamoto Mihoko
1965年京都市生まれ。慶應義塾大学経済学部卒業。同大学院博士課程単位取得退学。博士(経済学)。1994年本学着任。2005年より教授。専門は環境経済学。森林の持続可能性と貿易。資源貿易の政治経済学。

人間環境学部

新たな旅路に向けて

人間環境学部長 武貞稔彦 教授

ご入学おめでとうございます。新型コロナウイルス感染症の拡大という難しい環境の下ですが、新たな旅の始まりに皆さん胸を膨らませていることと思います。人間環境学部は、持続可能な社会の構築に寄与する人材の育成を目指します。社会は単に人が集まっているだけでなく、さまざまなルールや制度、組織で成り立っています。しかしその根本に在るのは、やはり皆さん個人という人間です。学部の目標は、社会の側から見た目標なので、皆さん個人にとって私たちの学部が持つ意味でいうと、皆さん一人一人の成長を促す場でありたいということです。成長自体が目的ではなく、これからの未来を自分自身がより良く生きること、他者も共により良く生きられる社会を作ることが目的です。それが持続可能な社会の構築という結果につながると信じています。人間環境学部では教職員力を合わせ、皆さんのこれから永く続く旅の支度を手伝っていきます。



Takesada Naruhiko
1966年生まれ。東京大学法学部卒業後、政府機関で14年間途上国援助に携わる。東京大学大学院新領域創成科学研究科にて博士号(国際協力学)取得。2010年法政大学着任。専門は国際開発/国際協力。

経営学部

ようこそ

経営学部長 金 容度 教授

ご入学おめでとうございます。経営学部は、企業の現在と将来を「見る目」と、企業で働く能力を高める場です。企業外部から見る洞察力、企業内で活躍する上での行動力の両方を鍛え上げます。理想と現実の間、行動と思想・哲学の間、現在と歴史の間を知的に往復しながら、深い思考力と果敢な実行力を身に付けていきます。そのために、経営学部は学問と実務、理論と実務を学べる多様で体系的なカリキュラムを整えています。専門性が高く、熱意あふれる教授陣も皆さんを待っています。こうした学びのプラットフォームの強みを活用し、学習しようとする皆さんの姿勢が最も大切です。多くの企業家を輩出し、個性的な人材が社会各界で活躍していることが経営学部の教育の成果を物語っています。大きく羽ばたき、グローバル化、IT(情報技術)の高度化という変化の時代を切り抜けていきましょう。ようこそ洞察力と行動力の学びの場へ。



Kim Yongdo
1964年生まれ。韓国ソウル大学経済学科卒業、同大学院経済学科修了。東京大学大学院経済学研究科修了。博士(経済学)。2002年、本学着任。米ハーバード大学客員研究員。専門は日本経営史、日本経営論、企業間関係論。

現代福祉学部

豊かさや幸せを突きつめる

現代福祉学部長 水野 雅男 教授

2020年度はステイホームを余儀なくされ、改めて人生の幸せとは何かをじっくりと考え、価値基準やさまざまな生活様式を変更した一年となりました。本学部の教育理念はウェルビーイング(健康で幸福な暮らし)の実現です。「豊かさや幸せとは何か」を探求し続ける姿勢が大切です。今日の我が国は、果たして豊かで幸せと言えるでしょうか。現代社会は、VUCA(不安定、不確実、複雑、曖昧)で表される予測困難な時代だと言われています。社会のさまざまな問題を多面的に観察するためのモノサシが必要で、社会現象の根源や本質を見抜く「直感」が重要な役割を担うでしょう。『直感とは何ぞ?』(ステイブ・ジョブズ)。講義などを通じてしっかりとしたモノサシを持つとともに、積極的にフィールドに出掛けて社会を観察することで、豊かさや幸せを高めるための「直感」を養ってください。



Mizuno Masao
1959年石川県生まれ。東京工業大学大学院社会工学専攻修了。金沢にて地域計画事務所を設立し、市民主導のまちづくり活動を多数主宰。金沢大学を経て2011年本学着任。ティファニー財団賞受賞。技術士(建設)、博士(学術)。

国際文化学部

学びの幅は思ったより広い

国際文化学部長 松本 悟 教授

ご入学おめでとうございます。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、SA(Study Abroad)が2021年度も中止となりました。まだまだ先が見通せず、2022年秋にはSAに行けると断言できない中でお迎えすることになりました。こうした事態になったことで、SAとは何か、国際文化学部とは何を学ぶ場なのか、教員と学生が共に考える機会になっていると思います。ぜひ一緒に学部を作っていきましょう。皆さんが履修できる科目の選択肢は非常に多く、一定程度までなら国際文化学部以外の科目も履修できます。科目、教員、履修年次の組み合わせは膨大にあります。一人一人が異なる組み合わせの科目を履修して同じ学位を取得している——高校までとは違い、ここに大学生の真骨頂があると思います。自分が学べる範囲を狭く考えすぎないでください。皆さんが思った以上に、この大学には学びの機会がたくさん転がっています。



Matsumoto Satoru
1963年神奈川県生まれ。早稲田大学(経済学士)、シドニー大学大学院(MSc)、東京大学大学院(国際協力学博士)。NHK記者、国際協力NGOラオス事務所代表、調査・提言NGO代表理事などを経て2012年本学着任。

情報科学部

情報社会の未来にチャレンジ

情報科学部長 藤田 悟 教授

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。大学生活が始まります。未来の自分を築くための重要なステップです。自分に責任を持ちながら、さまざまなものに挑戦してみてください。情報科学部は「情報」を考える学部です。情報は、日々の生活の中で、さまざまな形でやりとりされています。この「情報」は、どのように作られ、どのように伝えられ、そして、どのように分析されているのでしょうか。人間は、経験に基づいて、上手に情報を扱ってきました。これと同じようなことをコンピュータ上の知能として、実現できるのでしょうか。新入生の中からも、こんな未来の世界にチャレンジする学生が多く現れてくると思います。若い力でアイデアを生み出して、新しい概念を築き上げていきましょう。大学での学びは、皆さんの将来の糧となります。4年間、皆さんが大きく成長していく姿を楽しみにしています。



Fujita Satoru
1961年静岡県生まれ。1984年東京大学工学部卒、1989年同大学院工学系研究科博士課程修了、工学博士。日本電気株式会社を経て、2008年本学着任。専門は人工知能、サービスシステム。

キャリアデザイン学部

新たな生き方の構築へ

キャリアデザイン学部長 荒川 裕子 教授

キャリアデザイン学部は、2003年に誕生しました。新入生の皆さんよりやや年下の、非常に若い学部です。それまでの右肩上がりの成長社会が終焉を迎え、人々の生き方や働き方の「定番」が崩れつつある中で、自立／自律した「個人」として、これからの時代を力強く切り開いていける人材を育てるために創設されたのです。

コロナ禍という、現代社会がかつて遭遇したことのない未曾有の状況を経験した今、私たちの生き方、働き方、学び方には、さらなる変化が訪れようとしています。世界中の誰もが不安を抱き、手探り状態にあります。そのような時代に大学に入学した皆さんは、新しい社会を構築していく最初の世代になるでしょう。キャリアデザインとは、「人と人が支え合いながら、より良く生きるために人生（キャリア）を設計すること」です。このたびの災禍を逆にバネにして、創造的な未来のデザインに挑戦しましょう。



Arakawa Yuko
神奈川県生まれ。東京藝術大学美術学部卒、東京大学大学院人文科学研究科博士課程修了。静岡文化芸術大学文化政策学部助教授を経て2005年本学着任。専門は西洋美術史（特にイギリス近代絵画史）、アートマネジメント。

生命科学部

生命科学の実践知

生命科学学部長 山下 明泰 教授

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。世界中がコロナ禍の中、皆さんも不由な環境での受験勉強を強いられてきたことでしょう。本学でも講義はインターネットを利用しましたが、必修の実験科目が多い生命科学部では、感染症対策に万全を期した上で対面式の実験を行いました。何事も100%を望むことは難しいですが、小金井キャンパスでは皆さんの心配を払拭し、期待にこたえられるように、十分に準備を重ねています。我慢比べは続きますが、強い意志を持つてこの難局を一緒に乗り越えましょう。

法政大学憲章にうたわれた「自由を生き抜く実践知」は、「生命の科学」を追求する私たちにとって、「Withコロナ」を生き抜く実践知」のことかもしれません。これからの4年間、あらゆる機会を利用して、あらゆる課題に挑戦する中で、この命題の「解」を自分で見つけてください。それがきっとできる場こそが、生命科学部なのです。



Yamashita Akihiro
1957年茨城県生まれ。早稲田大学理工学部卒業。民間研究所などを経て、テキサス大学オースチン校大学院博士課程修了（Ph.D.）。帰国後、二つの大学を経て、2013年より本学教授。専門は生体化学工学。

デザイン工学部

デザインと社会問題解決

デザイン工学学部長 福井 恒明 教授

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。デザイン工学部へようこそ。

デザインとは何かを飾ることではなく、空間や構造物、製品、仕組みなどの機能実現を通じて、社会の問題を解決することです。近年、高齢化や人口減少に伴う都市の持続可能性、格差や分断の問題など社会問題が複雑化し、それをデザインによって解決することへの要請が高まっています。これらに取り組みには、問題を理解するための幅広い分野の知識、解決策を練り上げる思考や他者との協働、デザインを具体化する技術が必要です。

これから始まる大学の授業や実験・実習で工学的な考え方を身に付け、文理を超えた知性に支えられた感性を養ってください。積極的に学外に出て、実際にモノを見たり、利用者や実務者の話を聞いてください。

デザインに唯一の正解はありません。皆さんと一緒にデザインについて考える日々を楽しみにしています。



Fukui Tsuneaki
1970年東京都生まれ。東京大学工学部土木工学科卒業、同大学院工学系研究科修士課程修了。清水建設、東京大学、国土交通省国土技術政策総合研究所等を経て2012年本学着任。専門は景観工学。

GIS(グローバル教養学部)

Be the drivers of change

GIS(グローバル教養学部)長 新谷 優 教授

or 2) take actions to expand what can be done. I believe that you all joined Hosei University because you chose the second option. I hope that the four years you spend with us will further help you identify what actions you need to take to improve your life and the life of those you care about.

Don't be a complainer. Be the drivers of change.

Welcome to Hosei University.

The world changed drastically in 2020 — dining out with friends, hugging family members, cheering for sports teams, traveling, and singing out loud have all changed from what you could enjoy in your free time to a craving that you wish you could do. I assume the start of your campus life is far from how you dreamt it would be.

You may react to this unfortunate situation in two ways: 1) you can complain and moan about what you cannot do,

理工学部

「あつ、そうか」と思うこと

理工学部長 木村 光宏 教授

大学への入学という節目を迎え、皆さんは新しい扉を開きました。この一年余り、閉塞感を感じながらの生活が続いていたかと思いますが、4月を迎え、多少とも環境を変え、チャンスが来ました。皆さんの前には何か新しいものが今から幾つも現れるでしょう。それらを見逃さないように、上手に取捨選択し、自分のものとして取り込みながら過ごしてほしいと思います。

皆さんに今から培って貰いたいことの一つに判断力があります。良い判断力は何によって培われるでしょうか。情報や経験や専門的知識でしょうか。私はそれらを含めた教養なるものが判断力の鍵だと考えます。皆さんが何かに触れて「あつ、そうか」と思ったとき、皆さんの教養は豊かさを増すでしょう。本学はその機会をできるだけ多く提示していきます。それらを通じて皆さんが教養を豊かにし、良い判断力を備えてくれることを心から期待します。



Kimura Mitsuhiko
1964年広島県生まれ。広島大学工学部第二類（電気系）卒業。同大学院工学研究科システム工学専攻博士課程修了。博士（工学）。2001年9月本学着任。経営システム工学科。専門は信頼性工学、応用統計解析。

スポーツ健康学部

専門は深く、良識は高く

スポーツ健康学部長 鬼頭 英明 教授

皆さん、ご入学おめでとうございます！スポーツ健康学部は、多摩キャンパスの中でも唯一の「トンネル」を抜けた高台に位置し、緑とグラウンドに囲まれた環境の中で、「スポーツ」と「健康」を見つめ、究める機会を提供しています。

学部の目的は、「スポーツ健康学」の体系的な教育と研究を通じて、健康の維持、増進とスポーツの発展に関わる多様な領域で社会に寄与し、公共の福祉に貢献することとしています。ヘルスデザイン、スポーツコーチング、スポーツビジネスの三つのコースで構成されていますが、垣根はなく皆さんが興味関心のある授業を選択することが可能です。

4年間を通し、「専門は深く、良識は高く」を忘れないよう自らを高めてください。ここでの貴重な学びは人生の肥やしになるもの、すべきものであり、身に付けた専門性を生かし、社会のさまざまな場で良識ある社会人として活躍することを願っています。



Kito Hideaki
1954年名古屋生まれ。岐阜薬科大学卒業。同大学院薬学研究科博士課程単位取得退学。薬学博士。岐阜薬科大学、文部科学省スポーツ青少年局、兵庫教育大学を経て2016年本学着任。専門は学校保健、公衆衛生学。



上海に設立した子会社の社長時代、メンバーとの夕食会(左から3人目が棚橋さん)。

が、この仕事のやりがいです。また、この変化の激しい時代、経営コンサルティング会社も変革できなければ未来がありません。従業員数が数十万人の規模になると、都市のような規模です。変革は並大抵のことではありません。しかし、デロイトが変革し続けられれば、変わる事が難しい大企業にも、「私たちは変われる」というエールを送れる。そういう期待を持ち仕事に取り組んでいます。

起業を志し、実現させた大学時代

高校時代、理系での進学に疑問を感じていたときに、大学発ベンチャーの新聞記事を読んで起業に興味を湧き、法政の経営学部に入りました。経営の基礎知識を身に付けるために中小企業診断士試験の勉強をし、2年次に1次試験に合格。その後、ビジネスプラ

ベンチャー経営の経験がグローバル企業で花開く

卒業後2年でタダコピは全国展開を成し遂げて、米国・中国に進出し、私是中国子会社の社長を務めました(赴任中は、第2外国語で学んだ中国語が多少なりとも役に立ちました)。しかし、思い描いていたような成長を遂げることができず、自分の経営力不足を思い知らされました。そこで、一回り大きな経営者を目指そうと決心し、デロイト・トーマツコンサルティングに転職したのです。

コピー取りなどから仕事を覚え、トリリンガルも珍しくない優秀な同僚に劣等感を感じながらも、誰よりも仕事に没頭してきました。ベンチャー経営

多様性のある法政大学生はダイヤの原石

日本はこの30年間でIMD世界競争力ランキングでは1位から30位に低下し、一人当たりGDPはOECDで最下位グループ。「もはや先進国ではない」という言葉を耳にします。しかし再興の可能性は十分あると思います。その鍵は、戦略と起業家精神の融合です。

起業家精神とは、志を持ち、うまくいかない環境そのものを楽しみ、同志を集め、しつこくトライし続ける精神です。戦略とは、戦いを略くことです。周りの当たり前に流されずに、目的を達成するための具体的な作戦です。派閥に属さず総理大臣となった菅義偉首相、コロナ対策と経済政策の両立に果敢に挑む鈴木直道北海道知事など、法政の卒業生には戦略の名手が少なく



Tanahashi Satoru

1984年茨城県つくば市生まれ。2003年経営学部経営戦略学科に入学。在学中の2005年に起業、中国子会社の代表を経験。2012年、デロイト・トーマツコンサルティング入社。2020年6月、戦略コンサルティング部門の執行役員に就任。



戦略と起業家精神で同志と共に日本の未来を変えたい

デロイト・トーマツコンサルティング合同会社 戦略コンサルティング部門 執行役員

棚橋 智さん

世界有数規模の経営コンサルティング会社の執行役員に30代で就任した棚橋 智さん。大学時代に起業し、東京と上海でベンチャー経営に挑んできた経験を糧に、大企業でイノベーションを起こすという難題に挑んでいます。

インタビューは、リモートワーク中の棚橋氏の自宅にて実施しました。



海外企業との提携交渉で海外に赴くことも。サンフランシスコの現地オフィスの前で。



このページでは、法政大学憲章の「自由を生き抜く実践知」を体現している本学の卒業生を紹介していきます。

企業、産業、社会をより良い方向に変えていく裏方

自動車、電機、IT分野などの大企業に対して、新規事業戦略や長期ビジョンの策定などの支援をしています。デロイト・トーマツグループ(デロイト)は、世界に30万人以上の従業員を抱え、経営コンサルティングや監査サービスを通じて、世界経済の発展に寄り添ってきました。

私のチームが世界的な自動車メーカーから依頼をいただき、今話題のSDGsやサステイナビリティ社会の到来を見越して、6年前に発表した2050年のビジョンが、メディアから今なお「なぜこれほど先進的なものを当時に出せたのか」と評価をいただくことがあります。それを参考に自社のビジョンを刷新する会社が出てくるなど、未来の産業や社会をより良い方向に変えていく礎として関わること

ありません。勉強に遊びにスポーツに熱中してきた多様性のある人材が集う法政大学という環境は、起業家精神と戦略を身に付ける有数の「ダイヤ工場」だと思っています。

海外大生が選ぶ就職人気企業ランキングでは1位を獲得するなど、当社や経営コンサルティング業界の人気は高まっていますが、法政の出身者は多くはありません。合格率で見ると、国内の諸大学と良い勝負なのですが、受験者数が1桁少ないのです。採用面接官をやると、母校の受験者数の少なさに悔しくなります。

就職活動では自信を失うことも少なくないと思います。「戦略と起業家精神」のことを思い出し、周りに流されずにしつこく行こう!!と、次のトライに立ち向かっていきましょう。

※1タダコピ: コピー用紙の裏面に学生向けの広告を掲載し、学生が無料でコピーを利用できるサービス。現在も一緒に起業したメンバーが事業を展開中。
 ※2株式会社ディスコ 2019年4月発表



職場に力を与える管理職を増やすために

キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科 教授 坂爪 洋美

部下が変わる、管理職が変わる

「部下の多様性が高まる中、管理職は部下にどのように接すればいいのか」、これが私の明らかにしたいことです。管理職の仕事の核は、職場に任せられた仕事の成果を上げることであり、そのために部下を適切にマネジメントし、育成することが求められます。

ここ数年、部下の性別などの属性や働き方が急速に多様化し、職場には女性や高齢者、外国籍の人などが以前より増えてきました。また、今回のコロナ禍でリモートワークが浸透し、目の前にいない部下をマネジメントする必要が出てきました。こうした変化は、管理職の部下への接し方に変化をもたらしています。例えば、仕事と育児の両立を図る部下が力を発揮できるようにするには、働ける時

間に特段の制限がない部下とは異なる、ちよつとした配慮が必要になるでしょう。同様に、目の前にいる部下には有効だった、「背中を見せる」ことで教える方法は、目の前にいない部下には通じません。つまり、管理職の仕事の核は変わらなものの、職場の状況が変化する中で、部下への接し方は今までどおりとはいかない状況になります。

多様な部下と話し、職場をまとめる

これまでの調査から、部下の多様性が高まると、管理職には、部下一人一人と話して状況を理解し、必要に応じた配慮が求められるようになることが分かっています。多様であるということは、部下は自分と異なり、かつ部下間でも異なるということですから、直接話さないと分かりません。

だということ。部下が多様で、それぞれ異なる存在だからこそ、管理職は部下に求めることや自分自身の考えを、職場全体に浸透させる必要が出てきます。つまり、「うちの上司が大事にしていることはこれ」「うちの上司だったらこう判断する」といったことを、管理職と部下がずれることなく理解している状況をつくり出すということです。それぞれ異なる存在であっても、目指す目標と物事の考え方の基本路線は一致していることが大事です。

管理職には、部下とのコミュニケーションにおいて、「聞く」「話す(伝える)」の双方を今以上にパワーアップすることが求められています。個々の部下の話や重要性が高まっているだけでなく、聞いた上で、職場全体に対して、自分自身の考えを伝えるメッセージを発信し、職場をまとめることも、これまで以上に重要になっていくのです。「伝えるだけでなく聞いてください」というよりも、「聞いてください。それを踏まえて今以上に明確に、自分のメッセージを伝えてください」ということです。

また、リモートワークの進展により、管理職が部下にメッセージを文字で伝える、画面越しに伝える・聞くというスキルの重要性が高まっています。オンラインは、情報を伝えることは得意ですが、感情を伝えることが不得意です。モニター越しに共感を伝えるには、また別の

スキルが必要になります。

管理職に対する視線の変化

私が、管理職を対象とした研究を続けている理由をお話しします。新聞などで「管理職の役割が重要」という言葉をよく見かけます。その言葉には、「職場のマネジメントでは管理職が重要だけれど、なかなか思うようにいかない」というニュアンスが含まれていることが少なくありません。

私が管理職に興味を持ったきっかけは、「なぜ、思うようにいかないのか」という疑問でした。研究を始めた当初は、「やるべきことが分からないから、うまくいかないのだろう」と考えていました。つまり、管理職としてやるべきことが分かればこの問題は解決する、言い方を変えれば、うまくいかない原因は管理職にある、と考えていたのです。

管理職は多忙だといわれます。でもどこかで、「管理職なんだからそれぐらいやって当然」「何とかするのが管理職」と考えられているのではないのでしょうか。私も最初はそう思っていました。ですが、研究を続けるうちに、「これは管理職だけの問題なのだろうか」と自身の管理職に対する視線が変わっていったのです。確かに問題のある管理職もいるでしょう。ですが、管理職が求められる行動を取るには、同時に取れるだけの土台も必要不可欠です。管理職としてやること

ここでいう配慮とは、部下の状況を踏まえた上で、その部下がやるべきことを決め、それができる環境を整備することです。気を付けるべきは、部下にとっても職場にとっても良い結果につながる形の配慮とすることです。その部下だけが得(損)をする、職場だけが得(損)をするのは望ましくありません。

部下の多様性が高まることは、職場がバラバラになる、揉め事が増える一因にもなります。価値観の異なる部下が、自分の希望ばかりを主張し、好き勝手にやりたい放題になってしまうと、職場の成果が上がらないだけでなく、まとまりがなくなり、「自分だけが損をしている」「あの人は合わない」といった殺伐とした雰囲気になりかねません。

つまり、管理職が部下一人一人と話すことは必要ですが、それだけでは不十分です。部下の多様性が高まることも増え、かつ複雑さが高まっているにもかかわらず、管理職が立つ土台が変わらないのは、それはそれでおかしいのではと考えるようになりました。

「何とかするのが管理職」、確かにそうかもしれませんが、それには限度があります。それぐらいやって当然と言うからには、それぐらいやれる土台をつくるのが会社の役割です。働き手の変化に応じて、管理職の部下に対する行動が変わるように、管理職の行動が変わるのならば、管理職の権限など彼らを取り巻く環境もまた変わるべきです。それにもかかわらず、「管理職なんだから何とかして」とそのままにしている状況が今なのではないか、そういった問題意識を持つようになりしました。

管理職が魅力的な仕事であるために

働く人が皆、管理職を目指す必要はありません。それでもなお、多くの働く人にとって、管理職が「やってみたい」と思える魅力的な仕事であってほしいと考えています。昇進レースを勝ち進んでいる証しとしてでなく、人の力を引き出し、人を育て、個の力をチームの力へと組み合わせる、そういった管理職の仕事の醍醐味に引かれる人が増えることが、管理職として力を発揮する人を増やし、職場の力を高めることにつながるからです。



Sakazume Hiromi

1967年生まれ。慶應義塾大学文学部卒業。民間の人材紹介会社に勤務後、同大学大学院経営管理研究科博士課程単位取得退学。博士(経営学)。日本労務学会元会長、日本労働研究雑誌編集委員、キャリアコンサルタント登録制度等に関する検討委員会。専門は産業・組織心理学。近著に『シリーズダイバーシティ経営 管理職の役割』(中央経済社、2020年、共著)、『管理職の役割の変化とその課題——文献レビューによる検討』(『日本労働研究雑誌』、2020年、単著)、『インターンシップでの社会人との関わりが大学生のキャリア探索に与える影響—A社のインターンシップ参加学生への事前・事後調査を通じた分析—』(『キャリアデザイン研究』、2020年、共著)など。



細胞の再構成をテーマに 生物のメカニズム解明に挑戦

細胞を構成する各要素から、細胞を再構成する研究をテーマにまい進している金子智行教授。
手掛けているリボソームや心筋細胞の研究は注目度も高く、美容分野や医学分野に応用が期待されています。

生命科学部生命機能学科 教授 金子 智行

が可視化できるので、新薬の効能や副作用の有無を事前に確認しやすくなります。この研究は、早期の実用化が期待されています。

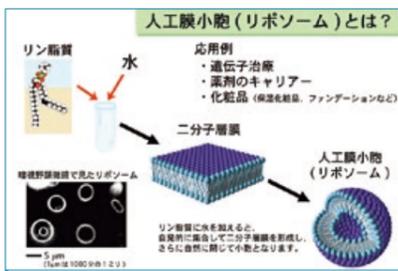
こうした生命科学の研究が、医学や薬学に発展して治療や投薬時のリスク軽減につながるのであれば、喜ばしいことです。細胞の新たな可能性を追究していきたいと考えています。

**偶然で結ばれた恩師の導きで
出合ったライフワーク**

研究者として歩んで来た道のりは決して順風満帆とはいええず、数多くの失敗やつまづきも経験してきました。ただ、何かに導かれるような不思議な縁には恵まれていたと思います。最たる縁が、恩師との出会いです。

高校時代から「自身で細胞を作ってみたい」、生命の起源の解明に近づいてみたい」とおぼろげながら夢を抱き、細胞のことを少しでも知ろうと分子生物学を専攻しました。大学院へと進学したものの、配属予定の研究室は教授が退官目前と聞かされ、前途多難な展開を案じていた時に後任として赴任してきたのが、生物物理学の第一人者である恩師・宝谷紘一先生でした。

驚くべきことに宝谷先生は、すでに高い評価を得ていた自身の研究を助手に引き継ぎ、新たな研究を始めるとい



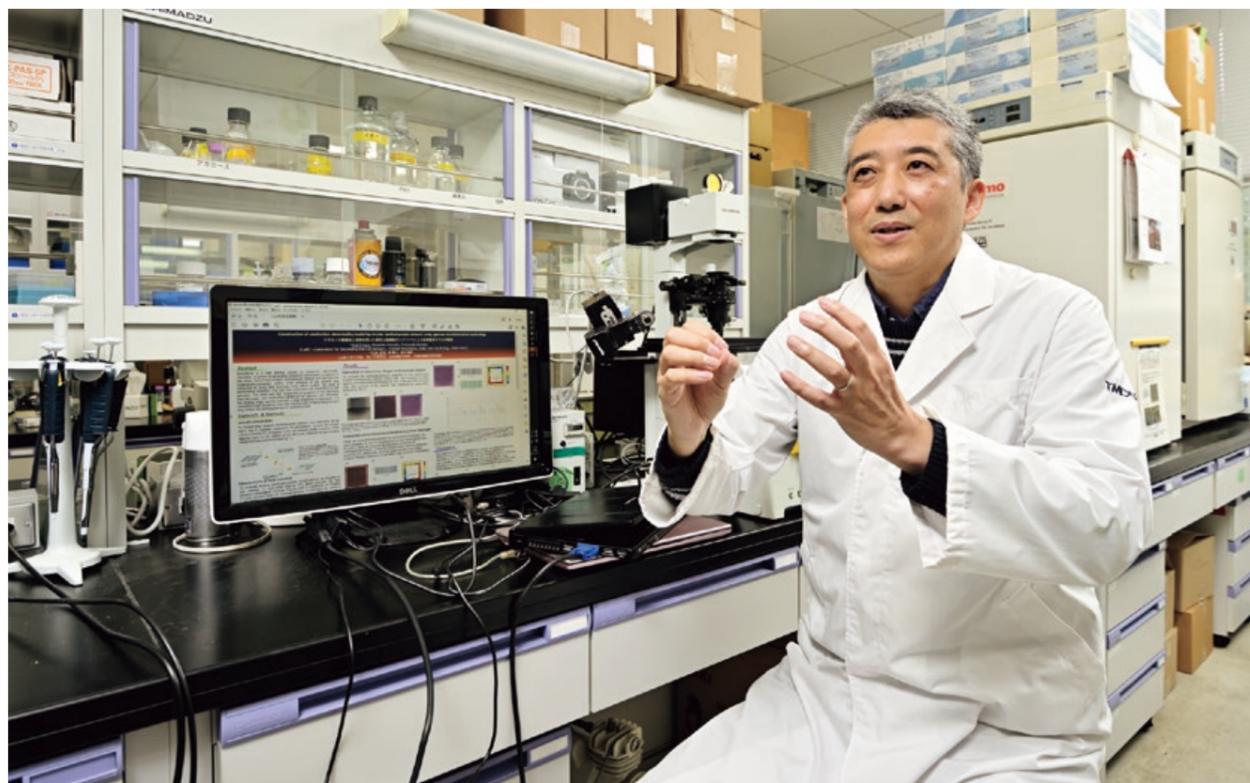
リボソームの形成過程。生体膜を構成しているリン脂質に水を加えると、自発的に集合して人工膜小胞(リボソーム)を形成する



2019年夏のゼミ合宿で、教え子たちに囲まれた集合写真 (2020年度は中止)。研究室の愛称LaRCの「L」を指で作るのが集合写真の定番ポーズ



宝谷先生 (写真中央) の退官後、最初で最後となった同窓会。多くの人から慕われた先生だけに多くの人が集まり、異文化交流さながらの時間になった



うのです。それがリボソームであり、まさしく自分がやりたかった「新たな細胞づくり」への挑戦でした。

宝谷先生の紹介により、複数の大学が学部をまたいで参加するナショナルプロジェクトの研究スタッフとして働いたことも、思い出深い経験です。異なる大学の工学部と医学部の研究室を歩き来する日々は、理学部で学んだ私にとって、言語が違おうと戸惑うほど、異質な空間に思えました。けれど、多国籍の人が集う工学部の研究室で英語のみでコミュニケーションを続けたこと、医学部の研究室で病理学に触れたこと、経験した全てが今の研究に確実に生きています。

「細胞を作りたい」という原点の思いは遠すぎる目標で、かなえるには相当の長い時間がかかるでしょう。でも、いつか誰かが実現してほしい。その時までバトンを途切れさせないように、恩師から受け継いだ思いに自分の思いを乗せて、次の代へとつないでいきたいと思っています。

**不自由を感じる自由の中で
自身の実践知を育ててほしい**

恩師から受けた影響は大きく、研究内容はもちろん、教育者として学生と接するスタイルにも「イズム」として受け継がれています。

Kaneko Tomoyuki

1970年山形県生まれ。名古屋大学理学部分子生物学専攻卒業、同大学院理学研究科分子生物学専攻博士後期課程修了。博士(理学)。東京医科歯科大学学生体材料工学研究所准教授などを経て、2008年に本学理工学部兼任講師として着任。2013年生命科学部生命機能学科教授に就任。現在に至る。米国細胞生物学会、米国生物物理学会、日本生物物理学会会員。

例えば、学生に接するときには、ニックネームで呼び合えるくらいの親近感を持ちつつ、学びの自由や主体性を妨げないように、見守りながらサポートすることを心掛けています。

学生が取り組もうとする研究テーマにも特に制限を設けていないので、近年はマクロファージ(体内に侵入した細菌などの異物を捕食する能力に長けた白血球の一種)や神経細胞などにも興味を広げています。

ただ、近頃の学生を見てみると、「自由にしたい」と判断を任せると、不安や恐怖に縛られてしまうのか、「まるで不自由な環境にいるように」何もできなくなってしまう傾向を感じています。何をすべきか指示された方が動きやすいと、自分から吐露する学生もいます。何をするか、どのように行動するか、自分で判断し、その判断を信じてほしいと願っています。

「自由」が、自身の未来を形づくる「実践知」になるはず。自身の実践知を育ててほしいと願っています。

細胞が持つ働きを解明し
医療の進化にも貢献

小 金井キャンパスでモノづくりが好きでメンバークルが、エコーカーや電気自転車の製作を手掛けている機械研究会。活動のメインは、毎年11月にツインリンクもてぎ（栃木県）で開催される「Energy, 1 GP MOTEGI」（以下、エネワン）への出場。動力源は単三充電式乾電池40本という、制限付きエコ車両でのサーキットレースです。

1年次は電気自転車、2年次以降は3輪以上のエコカー製作を手掛け、上級生のサポートを受けながら、新しい技術を覚えていきます。

「やはり仲間と一緒に創意工夫しながら、一つのモノを作り上げる楽しさは格別です。製作中はモーターが動かないとか、ブレーキが利かないとか次々と不具合が起こるので、皆で話し合い、試行錯誤しながら解決手段を模索します。たくさん失敗を経て、完成した車両のモーターが回り始めた瞬間は、感動しました」と三上さんは語ります。

エネワンの競技は、①1周走るコースタイムを競う「ONELAPタイムアタック」と、②耐久力を競う「e-kid e n o n g デイスタンス」の2種。①と②の順位によるポイントの合計で順位が競われます。①で完走しないと②に出場することができず、①と②の競技間に充

機械研究会

**仲間と協力しながら
電池を動力源とする
エコ車両づくりに奮闘**



クラブ・サークル

※今回はオンラインで取材しています

上段左から、西野匠人さん（3年/代表）、三上智也さん（3年）、下段左から、小泉和輝さん（4年）、水上浩志さん（4年）※全員、理工学部機械工学科



現在改造中のエコカー車両は、電池のみのパワーでツインリンクもてぎの1周2.4kmコースを走行できるように空気抵抗を抑えた流線形



1年次に手掛ける電気自転車、市販自転車を分解し、モーターなどを積み込んで組み立て直す形で改造。写真は2019年に製作した1台



エネワン参加時は、前日から会場入りして、現地の作業スペースで車両の最終調整に励む（写真は2019年）

電はできないので、電池の使用配分を考えながら走行させることも重要な戦略になります。1年次の時に電気自転車のライダー役を務めたという小泉さん。「あいにく完走はできなかったのですが、少しでも前に進もうと奮闘している様子が実況中継のスクリーンに映し出され、大きな応援の声を聞いた時はうれしかったですね」と思い出を振り返ります。

レース前には車検があり、合格しないと走ることができません。時間ギリギリまで調整が施されます。

「前回（2019年）は、省エネでもパワーを出せるようにエコカーのモーターを新しくしたのですが、スペースの問題でブレーキが車両内にどうしても収まらず、残念ながら出場できませんでした」と無念の思いを語る水上さん。

リベンジを果たそうとした2020年は、新型コロナウイルス感染症の影響でイベントが中止に。活動も大きく制限されてしまいました。

「気持ちを切り替えて、まずは新しい仲間集めに励む予定です」と新年度への思いを語るの、代表の西野さん。「4年生も活動への協力を約束してくれているので、活動の火を消さないように、エコカーづくりの技術と楽しさを後輩に引き継いでいきたい」と、未来を見据えます。

ス ポーツビジネスやスポーツマネジメントに関して研究しています」と語るの代表の清水さん。「手掛けるジャンルの幅は広く、これまでにスポーツとSDGs、女子サッカーのWEリーグ成功に向けての考察、eスポーツ（エレクトロニック・スポーツ）の展望など、多彩なテーマに取り組んでいます」。

「学年混合の班を組んで、協力しながら課題に取り組むグループ研究を通じて、学びの質を自分たちで向上させてほしい」と語る伊藤真紀准教授。ハードな課題に挑むことで、学生らの成長を刺激しています。

春学期は、毎週異なるテーマを対象に、研究成果をプレゼンテーション形式で発表。秋学期はグループを再編成し、アンケート調査を行ってデータを収集するなど、一つのテーマにじっくりと取り組み、より深く考察した結果を導き出しています。

「発表したら終わりではなく、発表に対するフィードバックを受けます。内容に関する質問以外にも、発表時の態度への指摘など、全員から多様なリアクションが返ってくるので、すごく勉強になります」と語るの、茂木さん。「活発なやりとりを通じて、分かりやすい伝え方に気付くことができるので、自分のスキルが磨かれていると感じています」。

スポーツ健康学部スポーツ健康学科 伊藤真紀准教授ゼミ

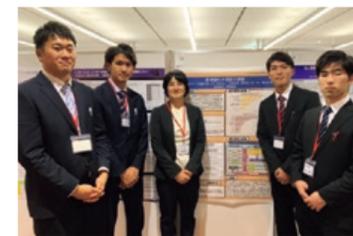


**プレゼンテーションと
入念なフィードバックで
スポーツビジネスへの
理解と学習の質を
高める**

ゼミナール・研究室

上段左から、伊藤真紀准教授、清水拓哉さん（4年/ゼミ長）、茂木聡汰さん（4年）、下段左から、奈下恵萌菜さん（4年）、向井瑠子さん（3年）、山越和馬さん（3年）※全員、スポーツ健康学部スポーツ健康学科

※今回はオンラインで取材しています



「野球離れ」をテーマとした調査研究は2019年11月に開催された「日本野球科学研究会第7回大会」でもポスター発表し、優秀賞を受賞



2019年に開催した夏合宿では、個人でテーマ発表に取り組みプレゼン大会を開催。親睦を深めるために、パーベキューやアスレチックなども楽しんだ



対面での交流が難しくなった2020年は、ウェブ会議ツールを使って懇親会を開催。新たにゼミに参加した2年生との距離を縮めた

2020年は、対面での活動を避け、オンラインで意見をまとめて発表資料を完成し、提出する方式でのやりとりは、口頭とは違い、言葉をじっくり選んで意見を伝えられるという利点を感じました」と語るの、4月から新ゼミ長となった山越さん。自身も体育会に所属して競技に取り組む選手だけに「アスリートのキャリア形成について、研究を進めたい」と、次なる目標を見据えます。

「ゼミに参加して間もない頃、先輩が作った資料のクオリティーに驚き、これが1年間のゼミ活動の成果なのだ」と圧倒されました。1年前を振り返るのは向井さん。「今後は自分たちが手本を見せる立場になるので、先輩たちがそうしてくれたように、親身になって後輩をサポートしていきたい」と語ります。

多様なテーマに取り組むうちに、自身の将来につながる刺激を受ける人もいます。その一人が「コロナ禍における日本のスタジアム経営の展望を調べているうちに、スタジアム運営に興味が高まりました」と語る奈下恵さん。「スポーツをより楽しんでもらうための付加価値として、スタジアムでの食事や空間サービスの提供などの仕事に就いてみたい」と自身の未来を描きます。

※WEリーグ：2021年9月に開催予定の日本初の女子プロサッカーリーグ。

THE SCENE

大学有数の歴史と実力を誇る、法政大学体育会。
そんな伝統ある40体育会が日々活動しているワンシーンを、迫力あるカラーグラビアで紹介します。



馬術部

撮影場所：多摩キャンパス城山地区
(馬場)
撮影：田中伸弥

1922年に創立され、2022年に100周年を迎える馬術部は、自然豊かな多摩キャンパスの馬場において、12頭の馬たちと共に日々活動しています。これまでに「全日本学生賞典障害馬術競技大会(飛越競技)」での優勝など、数々の成果を上げるだけでなく、地域のお祭りに馬と共に参加して、子供たちに馬との触れ合いの場を提供するなどの地域交流活動にも取り組んできました。今後は、「引退競走馬のトレーニング」、「ホースセラピー」、「馬を通じたエコ活動(馬糞堆肥の利活用)」などの研究教育活動にも積極的に取り組んでいきます。馬術部の新たなチャレンジに、ぜひご期待ください。

Message

「自由な学風」の下で、自ら考え、
行動する学生の声を届けます。

今を必死に、かけがえのない経験を

文学部地理学科4年
法政大学応援団第96代団長

Hoizumi Kyosuke

保泉 杏介 さん

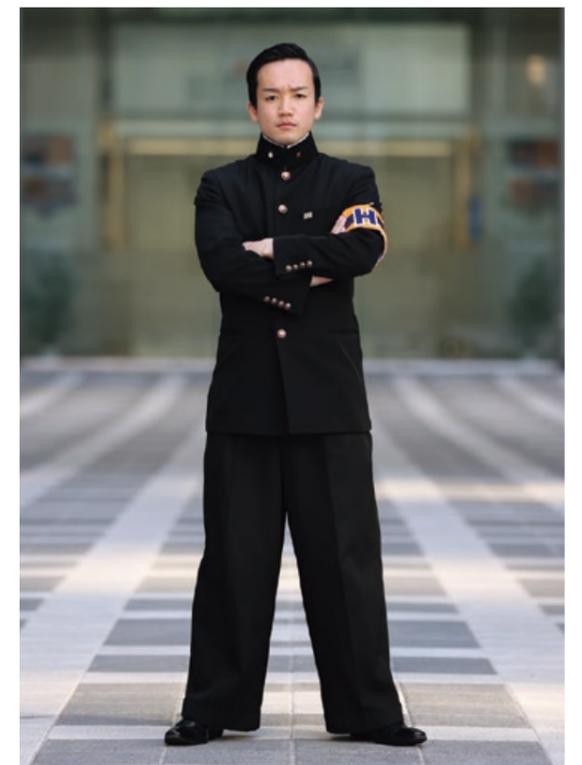
新入生諸君、入学おめでとう。

諸君の心の中にはこれからの大学生活が楽しみといった気持ちや、不安な気持ちが入り混じっていることだろう。だが、さまざまな経験を法政大学で大学生活が送れることを、ぜひとも誇りに思ってもらいたい。諸君が今、こうして大学生活をスタートできるのも、君たちを愛して育ててくださった、ご両親やご家族のおかげであることは間違いないだろう。少し照れくさいと思うかもしれないが、まずはそう思った方々への「ありがとう」という気持ちを忘れないでいてほしい。

さて、大学生活は多くの時間があり、どんなことでも挑戦できる。全国各地からさまざまな価値観を持った学生が集い、師の指導を仰ぐ。法政大学校歌の一節にある「よき師よき友つどひ結べり」。まさに法政大学とはそのような場所なのである。そして諸君に大切にしてほしいことは、時間を有意義に使い、法政大学でしかできない、何事にも代え難い経験を積むことだ。君たちの未来も可能性も無限大なのである。

私は法政大学に入学するに当たり、何か本気で打ち込めるものを見つけて「悔いのない大学生活だった」と言えるようにしたいと思っていた。初めて応援団の姿を見たときに、直感的に「これをやりたい」と思っ門をたたいた。応援団に入ると周りに伝えるとき「絶対に無理だ」「厳しすぎる」と言われた。だが、応援団を辞めたいと思ったことは一度もない。その理由は今もよく分からないが、最初にそう言われたことに対する意地だったのかもしれない。

応援団は厳しいと思うかもしれないが、私はそれ以上に得るものが多いと感じる。法政大学応援団は、学ランを着て手をたたき、声を張り上げて応援をリードする「リーダー



部」楽器を駆使して素晴らしい音色を響かせる「吹奏楽部」、華やかな衣装に身を包み、いつも笑顔で舞う「チアリーディング部」で構成されている。役割はさまざまだが、皆が同じ目標に向かって日々の活動を必死にならなければならない。楽しいときもつらいときも、いつも同じメンバーでここまでやってきた。ここまでの経験があるし、これからもたくさんが見えてくるのかもしれない。

とにかく今を必死になって生きることは、必ず未来の自分を大きくし、強くすると私は思う。

部「楽器を駆使して素晴らしい音色を響かせる「吹奏楽部」、華やかな衣装に身を包み、いつも笑顔で舞う「チアリーディング部」で構成されている。役割はさまざまだが、皆が同じ目標に向かって日々の活動を必死にならなければならない。楽しいときもつらいときも、いつも同じメンバーでここまでやってきた。ここまでの経験があるし、これからもたくさんが見えてくるのかもしれない。

とにかく今を必死になって生きることは、必ず未来の自分を大きくし、強くすると私は思う。

後援会だより

「子どもの母校は我が母校」
「後援会だより」は後援会が保護者の皆さまと作るページです。

新入生保護者の皆さまへ



法政大学後援会会長
清水 伸行

法政大学にご入学の皆さま、ご家族の皆さま、ご入学おめでとうございます。

法政大学後援会（以下、後援会）は学部学生の保護者により構成され、お子さまのご入学と同時にご入会いただいております。

後援会は戦後間もない1947年、荒廃した教育環境を立て直すため、保護者が自ら立ち上げたボランティア組織です。現在約2万7000人の会員を有し、首都圏および全国36支部で活動を展開しています。

大学および学生の支援、会員相互の親睦を図ることを目的とし、「学生と大学の一番の応援団」として、大学の備品の購入や学生の課外活動・体育会などへの助成、就職活動への支援などさまざまな事業活動を行っています。

2020年度は初頭から、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため活動を自粛せざるを得ない状況となりましたが、大学と連携を図り、コロナ禍で家計が急変し困窮し

た学生への経済的支援や会員の皆さまに向けたオンラインでの大学情報発信、個別相談などの事業を続けてまいりました。

また、後援会では毎年夏から秋にかけて、首都圏および各支部で父母懇談会を開催しています。2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催を中止しましたが、2021年度は状況を鑑みながら新たなスタイルでの開催を目指しております。この懇談会および懇談会関連企画では、廣瀬克哉総長や各学部長による講演、大学職員による学修や就職などに関する情報発信や個別相談を行いますので、ぜひご参加いただき、大学の「今」を知って安心していただけたらと思います。

後援会では「子どもの母校は我が母校」を合言葉に活動を行っています。その源泉は、子を感じる心です。後援会活動への皆さまのご理解とご参加、ご支援をよろしくお願い申し上げます。



市ヶ谷キャンパス



法政大学後援会

<事務局>
〒102-0073
東京都千代田区九段北3-2-3
法政大学九段校舎4F
TEL: 03-3264-9350
FAX: 03-3264-9367
E-mail: koenkai@hosei.ac.jp

後援会ウェブサイト
<https://www.hosei-koenkai.org/>



「後援会総会」のご案内

法政大学後援会では会則第11条により、2021年度の総会を6月5日（土）に開催いたします。今回は関係者の招集は行わず、後援会ウェブサイト上で電子表決を行っていただき、その表決結果を受け決議をいたします。

法政大学後援会会長 清水 伸行

会員(保証人)の皆さまへ、議決権行使のお願い

■ 議案

「2020年度事業報告(案)」「2020年度決算報告(案)」「2020年度監査報告」
「2021年度事業計画(案)」「2021年度予算(案)」「2021年度役員を選出について」

■ 議案の閲覧・表決方法

後援会ウェブサイト(<https://www.hosei-koenkai.org>)の会員限定特設ページにて議案をご確認の上、各議案への賛否入力・登録にお進みください。
表決の入力・登録にはログインが必要です。



■ 表決期間:5月21日(金)～5月31日(月)

※表決の入力・登録がない場合は、議長に一任いただいたものとさせていただきます。
電子表決のうち、賛成が過半数を超えた場合に可決とさせていただきます。
なお、決議結果につきましては、後日、後援会ウェブサイトにてご報告いたします。

後援会支部総会・父母懇談会について

2021年度の支部総会・父母懇談会は7・8月に、首都圏父母懇談会は10月に開催予定です。開催日程など詳細につきましては、該当の皆さまに順次郵送にてご案内いたしますので、ぜひご出席ください。
なお、後援会行事予定などの最新情報は随時、後援会ウェブサイトでもお知らせいたします。こちらも併せてご覧ください。



2019年度山梨県支部



2019年度宮崎県支部

2020年度 法政大学後援会表彰

後援会では毎年、公認会計士試験や国家公務員採用総合職試験などに合格した学生（学術分野）、スポーツ分野において優れた成績を残した学生（スポーツ分野）、外国人留学生の中で国際交流に特に貢献した学生に対して、表彰を行っています。
2020年度は、学術分野31人（本誌5月号で紹介予定）、スポーツ分野4人、外国人留学生5人に対して、清水伸行後援会会長より表彰状と副賞が贈られました。

後援会賞表彰者（スポーツ分野）

自転車競技部



経営学部4年
矢部 駿人

今回、インターカレッジ代替大会で優勝することができました。法政大学の選手として出場する最後の大会であったため、最後のチャンスで優勝できたことをうれしく思います。今後は競輪選手になるために、競輪選手養成所に入所し、自転車が続けていきます。



長野県美鈴湖自転車競技場にて2020年10月に行われた代替大会。この団体種目で優勝。

陸上競技部



経済学部4年
樋口 一馬

2020年のシーズンは例年どおりとはいかず、難しいシーズンとなりました。その中でも、日本選手権ではチーム一丸となつてリレーで優勝できたことが、とても印象に残っています。卒業後も競技は続けていく予定です。これからも頑張っていきます。



2020年10月17日、日産スタジアムでの表彰式後、監督・リレーチームと。

ヨット部



デザイン工学部4年
盛田 冬華

このたびは名誉な賞をいただき、大変光栄に思います。学びたいことを学びながら、世界選手権出場などを経験できたのは、法政大学に関わるたくさんの方々のご支援のおかげです。今後はバリ五輪に向けて活動していきますので、応援をよろしくお願いいたします。



2018年8月20日、世界選手権のレース前にイタリア・ブラッチャーノ湖にて(手前が盛田さん)。

ボート部



経営学部4年
石垣 優香

名誉ある賞をいただき、大変光栄です。体育会ボート部、そして日本代表として過ごした濃い時間は、今後の人生の自信、核になると思います。ぜひこの経験を生かして、ボートを世の中に広められる人材になりたいと思います。たくさんの方の応援をありがとうございます。



2020年10月25日、インカレと一緒に戦ったメンバー、4年間支え続けてくれたマネージャーと。

2020年度総留学生会会長



社会学部4年
LEE Jisu

このたびは、後援会賞をいただき、ありがとうございます。この賞は、4年間私の大学生活を支えてくれた韓国人留学生のみんなと一緒にいただく賞です。留学生会の活動は、私の人生で最も価値のある時間でした。本当に皆さん、ありがとうございます！



2020年韓国で。新入生は時間割を組むのにまだ慣れていないので、毎年先輩が頑張って手伝っています！

2017・2018・2019年度台湾留学生会会長



法学部4年
林文欽

留学生会の会長を務めたこの3年間、台日交流に励んできました。台湾人が少ない本校で、両国の架け橋として自覚を高く持ち、台湾の文化を広められるよう、常に思索し奔走してきました。これからも両国の交流に貢献していきたいと思えます。



2020年1月11日の台湾総統選挙日に、留学生会主催の模擬選挙で使われた道具。このイベントを通じ、日本人学生に台湾の政治を紹介できました。

2019・2018年度中国留学生会会長



文学部4年
宋子澍

このたびは名誉ある賞をいただき、光栄に思います。中国人留学生会の活動は、私の留学生活を支えてくれた大きな原動力でした。グローバル教育センターの方々、そして法政大学の留学生の皆さん、ありがとうございます！



留学生会の活動の様子。

2018年度韓国留学生会会長



人間環境学部4年
辛承娟

韓国人留学生会を通じて、温かさを感じながら留学生活を送ることができました。他国で一人ではなく、みんなと一緒にいるということが私を支えてくれました。その気持ちを原動力として、みんなで楽しめる合宿、学祭、運動会などの主催に力を入れました。



2018年6月9日、韓国人留学生会の合宿。海で遊びたいという話が多かったので、みんなが入れる海を探し、事前に直接行って調査。当日は、安全に楽しめました。

2020年度総留学生会副会長 2019年度中国留学生会会長

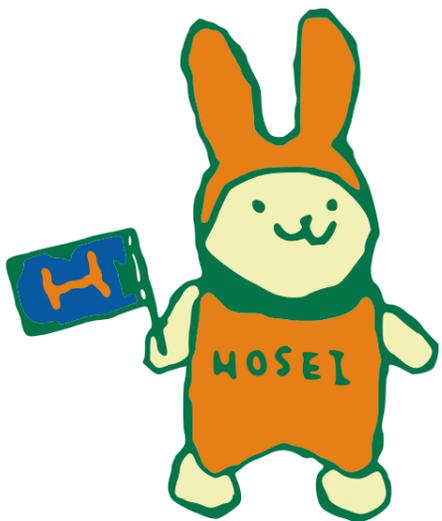


社会学部4年
陳黄作明

大学の国際交流に関するサークル活動や学内イベントでは、互いにどのような社会で生き、どのような文化で育てられたのかを考えることが、交流と理解の鍵であることを学びました。これは、異文化交流だけでなく、今後私が他者と接するときに重要な「戒め」となるでしょう。



2019年度多摩国際交流フェア(12月10日、エッグドーム)。国際交流サークル「FITus」が運営を担い、各国留学生団体が参加した国際交流イベント。





HOSEIミュージアム
HOSEI UNIVERSITY MUSEUM

法政陸上の開拓者たち 〜法政初のオリンピック・大木正幹〜

お正月の風物詩として知られる箱根駅伝(正式名称は東京箱根間往復大学駅伝競走)。本学が初出場したのは、ほぼ100年前のことです。

陸上競技部員の長倉恒夫は、1920(大正9)年の第1回大会で自分たちと同じ学生が走る光景を見て、チームプレーや団結力の大切さを痛感し、部の発展を考えた。皆と話し合い、翌年の参加を申し込んだといえます。

箱根駅伝100年の歴史における本学の最高順位は、1931(昭和6)年の第12回大会と、1943(昭和18)年の第22回大会の総合3位です。とりわけ1931年は優勝を狙える前評判も高く、4区の難波博士と5区の松本四郎が区間1位の力走で往路優勝を成し遂げました。続く6区でも区間賞を

とるなど順調にみえたところが、復路9区の大木正幹(せいかん)がおなかを壊して空腹で挑んだため、終盤に失速してしまったのです。

大木は四度、箱根駅伝に出場していますが、専門は短距離で、法政関係者では初めてオリンピックに出場した選手の一人です。在学中に1932年のロサンゼルス大会に出場し、400mは2次予選で敗れましたが、第3走者を務めた1600mリレーでは5位入賞を果たしました。当時の本学には400mで活躍する選手が多く、「400m王国」とも称されました。

大木は卒業後、母校陸上競技部の監督を務め、日本陸上競技連盟の運営にも尽力します。選手時代から自分の経験と信念に基づく練習を実践し、指導者になってから

も、選手それぞれの体力や個性に適した走法を取り入れ、形式に当てはめた指導や練習の強制は誤りであると主張しました。

個性を尊重し、自由を求める法政陸上の部風は、戦後も引き継がれます。大木の後を継いだ丸山吉五郎は学徒出陣から復学し、徐々に学び舎に戻ってきた部員たちと1947年の日本学生陸上競技対校選手権大会に出場。110mハードルと走り幅跳びで優勝するなど、法政陸上の復活の原動力となりました。

丸山は、体育教員として母校に勤務する傍ら、1964年東京オリンピックの強化コーチを務めました。また、陸上競技の指導書や解説書を多く執筆し、技術だけでなく学生とスポーツの在り方についても探究を重ねました。



1

2021年度上半期テーマ展示
「HOSEIスポーツの原点」

昨年度に続き、今回は陸上競技部、スキー部、テニス部の原点を形づくった人物やエピソードを紹介

場所：市ヶ谷キャンパス九段北校舎1階
詳細：HOSEIミュージアムウェブサイト
(<https://museum.hosei.ac.jp>)



3



2

- 1 オリンピック・ロサンゼルス大会に出場した頃の大木正幹(1932年)
- 2 2002年・2005年・2006年に使用され、「勝守」が縫い付けられた箱根駅伝の襪(個人蔵)。展示では実物を間近にみられる
- 3 1957年第33回箱根駅伝の様子。4区で区間賞を手にした馬場昭芳(1957年体育会卒業アルバムより)

校友会だより

一般社団法人法政大学校友会(以下、校友会)は、「法政ネットワーク」強化により校友憲章に謳っている「価値の創生・共創」を基本理念に、大学、後援会と手を携えて三位一体で諸事業を推進してまいります。

校友会と法政オレンジコミュニティの取り組み

卒業生と教職員の会員で構成される法政大学校友会は、世代、性別、出身地などを超えて卒業生が集まり、「卒業後も法政の一員であり続けること」が実感できる場です。全国各地・海外の地域支部、学部・付属校同窓会、職域やサークル関係などの卒業生団体があり、それぞれ活発に活動しています。

2014年3月以降の卒業生は、卒業と同時に校友会の終身会員となります。卒業後5年間は、卒業年度ごとの組織である「年度同期会」へ所属し、その後は任意の卒業生団体の活動に参加できます。

校友会は現在、次の事業を行っています。

- 「キャリア支援・カルチャー活動・スポーツ交流(CCS)事業」企画公開講演会、音楽団体派遣、スポーツイベント後援など
- 「イベント事業(三大イベント)」オール法政新年を祝う会、法政大学全国卒業生の集い、オール法政ゴルフ大会
- 「広報事業」ウェブサイトとSNSの運営、校友会報「ORANGE JOURNAL」発行
- 「校友会館建設事業」卒業生・在学生交流の活動拠点の新設

すべての世代がつながる「オール法政ネットワーク構築」を目指し、今後ともさまざまな取り組みを行ってまいりますので、ご理解とご協力のほどお願いいたします。

法政オレンジコミュニティの取り組み

20・30代の卒業生コミュニティ「法政オレンジコミュニティ(HOC)」は、仕事や趣味に生かせる取り組みや情報発信を行っています。

仕事や趣味に生かせるイベント

- これまでに実施したイベント(抜粋)
- ・異業種・同業種交流会(写真左)
- ・「コロナ禍で考える戦略的キャリア開発セミナー」
- ・土業による「コロナ禍、そして将来の働き方セミナー」
- ・「TOEIC対策講座」
- ・「おいしいコーヒーの淹れ方セミナー」(写真右)
- ・「『孤独のグルメ』制作秘話講演会」

社会で活躍する卒業生情報の発信

- さまざまな業界で働いている卒業生や、起業して経営者として活躍する卒業生の記事を掲載(1年間で約30人)。
- 掲載卒業生の勤務先(抜粋)
- ・全日本空輸株式会社(ANA)
- ・株式会社電通
- ・東日本電信電話株式会社(NTT東日本)
- ・キヤノン株式会社
- ・株式会社テレビ朝日

法政オレンジMAPの公開

卒業生が経営する国内外の飲食店やサービスを掲載した「法政オレンジMAP」をウェブサイトで公開。一部の店舗には、卒業生限定の特典も。



おいしいコーヒーの淹れ方セミナー



卒業生異業種・同業種交流会

一般社団法人法政大学校友会(会長:佐々木郁夫)
事務局 TEL:03-3264-1831 / Eメール:info@hoseinet.or.jp

校友会ウェブサイト
<https://www.hoseinet.or.jp/>



※校友会の終身会費3万円は、4年次春学期の学費と共に徴収いたします。

「第41回全日本ジュニアウエイトリフティング選手権大会」にて田宮翼選手(法学部1年)が96kg級で大会新

2月5日(金)～7日(日)に開催された「第41回全日本ジュニアウエイトリフティング選手権大会」。96kg級に出場した田宮翼選手(法学部1年)は、スナッチ145、クリーン&ジャーク175、トータル320の大会新記録で優勝を飾りました。81kg級に出場した宮下一樹選手(キャリアデザイン学部1年)も3位で表彰台に上っています。
※学年は授賞当時

水泳部、個人メドレーなどで男女ともに好成績

3月5日(金)に開催された「東京都シニア春季公認記録会」では、多くの選手が自己ベスト記録を更新。特に、女子200m個人メドレーでは、田中瑞姫選手(現代福祉学部2年)が2分15秒71の自己ベスト記録で1位を獲得しました。

また、2月20日(土)、21日(日)に開催された「東京都OPEN水泳競技大会2021」では、宮本一平選手(人間環境学部3年)が男子400m個人メドレーで2位、男子200m個人メドレーで3位を獲得。さらに、由良柁貴選手(社会学部1年)が男子50m背泳ぎで2位、柏崎清花選手(経営学部3年)が女子400m個人メドレーで2位と、好記録の力泳を見せました。今後も水泳部の活躍にご期待ください。
※学年は授賞当時

サッカー部の選手がプロチームに加入、内定



松井蓮之選手 荻田広大選手 田部井涼選手
(写真提供:サッカー部)

本学サッカー部の松井蓮之選手(スポーツ健康学部3年:内定当時)が川崎フロンターレ、荻田広大選手(現代福祉学部3年:内定当時)が湘南ベルマーレ、田部井涼選手(経済学部4年:内定当時)が横浜FCへの2022年シーズンからの内定が決まりました。それぞれ「2021年JFA・Jリーグ特別指定選手*」に認定されています。

また、2020年度卒業生の森岡陸選手(ジュビロ磐田内定)、長谷川元希選手(ヴァンフォーレ甲府内定)、関口正大選手(ヴァンフォーレ甲府内定)、高木友也選手(横浜FC内定)、平山駿選手(ギラヴァンツ北九州内定)、城和隼颯選手(ザスパクサツ群馬内定)、中野小次郎選手(北海道コンサドーレ札幌内定)、宮部大己選手(松本山雅FC内定)の合計8人がプロの世界へ活躍の場を移します。今後も本学サッカー部出身選手の活躍にご注目ください。

※現在のチームに所属登録したまま、Jリーグなどの試合に出場可能とJFAが認定した選手のこと

ピアネット主催「新2年生サポートDays」など学生生活応援プロジェクトのプログラムを随時開催



学生生活応援プロジェクト

本学では、コロナ禍にあっても、充実した学生生活を止めないために「学生生活応援プロジェクト」を各種開催しています。3月17日(水)～19日(金)には、2020年度に入学しながら、登校がままならなかった新2年生の皆さんに、より一層充実したキャンパスライフを送ってもらうために、ピアネット学生スタッフによる「新2年生サポートDays」を開催。学校施設内を案内するキャンパスツアー(市ヶ谷、多摩)の他、学習や課外活動、進路相談など、大学生活の気になることを先輩学生に相談できるコーナーなどが設けられました。

学生応援プロジェクトは、今後も継続して開催していきます。詳しくは大学ウェブサイト参照してください。

デザイン工学部の今井龍一教授がi-Construction大賞の優秀賞を受賞

建設現場の生産性向上を図る「i-Construction」に係る優れた取り組みを、有効性・先進性・波及性の観点から表彰する「令和2年度i-Construction大賞(国土交通省主催)」。デザイン工学部都市環境デザイン工学科の今井龍一教授が携ったプロジェクト「建設機械搭載型レーザスキャナによる土工・舗装工事のリアルタイム出来形管理の実現」が前田道路、三菱電機エンジニアリング、大阪経済大学の中村健二教授、摂南大学の塚田義典講師と共に「i-Construction推進コンソーシアム会員の取組部門の優秀賞」を共同受賞しました。

陸前高田市×法政大学SDGsワークショップ最終報告会を開催

2019年12月にSDGs推進連携協定を締結した陸前高田市と共同し、2020年11月より「SDGsワークショップ」を進めてきましたが、3月12日(金)に最終報告会を開催しました。

本ワークショップは、学生と陸前高田市にある4つの事業者が協力し合い、共にSDGsの課題解決に向けた提案を考えるものであり、学生は、プレゼンテーション形式で発表しました。当日の様子はオンラインにてライブ配信され、陸前高田市の戸羽太市長、田中優子前総長からもメッセージが寄せられました。



2021年度グローバル教育センター課外講座開講のお知らせ



課外講座案内

グローバル教育センターでは5つの有料講座を2021年5月より開講いたします。

■ Everyday 英会話講座(オンライン):100日×40分
授業の空き時間で英会話を高めます。

■ 語学試験対策講座(春学期オンライン):100分×10回
短期間で語学試験のスコアアップを目指します。

- ・TOEFL® iBT 講座(目標71点)
- ・TOEFL® IELTS 講座(目標6.0)
- ・TOEIC® L&R 講座ベーシック(目標500点)
- ・TOEIC® L&R 講座インターミディエート(目標730点)

各講座は株式会社アルクエデュケーションにより運営されます。講座内容の詳細は同社ウェブサイトよりご確認ください。

多摩地区5大学が行政と連携して「第7回大学生ボランティア活動報告会&イベント」に参加



気仙沼市内/臨住宅は東日本大震災からの復興の拠点としてランドマーク性を持った住宅団地です。

2月14日(日)に、本学を含めた大学5校(中央、明星、実践女子、東京都立、法政)と、日野市、日野市社会福祉協議会、東京ボランティア・市民活動センターが参加した「第7回大学生ボランティア活動報告会&イベント～被災地と多摩地域の架け橋～」が、オンラインにて開催されました。

第1部は、東日本大震災時に宮城県の中学校で教諭をしていた佐藤敏郎氏(Smart Supply Vision 理事 兼 講師)と、被災地で活動を続ける学生とのトークセッションが行われ、第2部では参加団体の作成した動画がYouTubeにて配信されました。本学からは、宮城県気仙沼市支援チーム「気仙沼でつながる騎士(ナイト)」がこれまでの現地活動や東京での活動を紹介した「気仙沼でつながった2年間」を配信しました。

オンライン開催という新しい試みでしたが、大学生同士の交流も生まれ、実りある時間となりました。

市ヶ谷キャンパス55・58年館建替工事が竣工しました



市ヶ谷キャンパス55・58年館建替工事に、2021年1月末に竣工いたしました。

本工事は「キャンパスの記憶、歴史をつなぐ」というコンセプトにて、2012年度から基本構想の策定に着手。2014年3月に着工を開始し、2016年8月に富士見ゲート、2019年3月に大内山校舎が竣工した後、中央広場や大内山庭園を中心とした外構工事を経て、予定通り2021年1月末に工事全体の竣工を迎えました。

工事期間中は、皆さまのご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。

2021年度の学年暦を公開しています

2021年度の授業期間、試験期間、休業期間、祝日の授業実施予定、入学式、学位授与式の日程をまとめた学年暦を公開しています。



学年暦

多摩キャンパス路線バス割安定期券・回数券の販売

多摩キャンパス鉄道最寄り駅とキャンパス間の路線バス定期券・回数券は、大学が運賃補助を行っています。通常のバス料金価格よりも割安な本学学生専用定期券と回数券を、多摩キャンパス内の法政大学生生活協同組合店舗(総合棟地下1階生協タマエもん店)で販売しています。ぜひご利用ください。



多摩路線バス定期券

2021年度の事業計画書、予算書を公開

2021年度の事業計画書および予算書を公開しています。



事業計画書、予算書

本学専任教職員の最近の著書、編纂書、訳書をご紹介します。

BOOKS



ロマネスクとは何か 石とぶどうの精神史

10世紀から12世紀半ばにかけて、豊かな自然を背景に新たな信仰を模索した人々は、天上に神を仰ぐ一神教を維持しつつ、自然界に神々の現れを見る異教を受け入れて、垂直と水平の両方の視界の「つながり」を求めた。近年の西洋中世研究の成果をふんだんに織り込み、ロマネスクの時代精神に光を当てた書。

酒井 健 著
文学部哲学科 教授
出版社：筑摩書房
発行：2020年10月



女性のキャリア支援 (シリーズ ダイバーシティ経営)

なぜ女性の能力発揮が重要なのか、女性の活躍によって何を指すのか。日本のダイバーシティ経営の推進や、女性が主体的にキャリア形成に取り組むための課題を明らかにする書。このシリーズにはキャリアデザイン学部の坂爪洋美教授（「管理職の役割」）や松浦民恵教授（「働き方改革の基本」）も発刊している。

武石 恵美子 他2名編著
キャリアデザイン学部
キャリアデザイン学科 教授
出版社：中央経済社
発行：2020年9月



寄生虫のはなし この素晴らしい、虫だらけの世界

世界を股にかけて活躍する若手寄生虫学者が集結し、各々の専門分野について分かりやすく解説しながら、寄生虫の魅力を紹介。医療・衛生関係、農業や水産畜産業、行政分野、さらに教育や研究などに従事する人たちが寄生虫学を理解する際のテキストとしても役立つ内容となっている。

島野 智之 他3名編
国際文化学部国際文化学科 教授
出版社：朝倉書店
発行：2020年10月



仮設住宅 その10年 陸前高田における被災者の暮らし

10年間にわたり仮設住宅に住まざるを得なかった被災者の暮らしを検証する。東日本大震災で壊滅的な被害を受けた岩手県・陸前高田市での被災者の暮らし、地域福祉、都市計画、まちづくり、社会学などの研究者や実務家で構成される支援プロジェクトが活動してきた10年間の模索と提言。

陸前高田地域再生支援研究プロジェクト
宮城 孝 他2名編著
現代福祉学部福祉コミュニティ学科 教授
出版社：御茶の水書房
発行：2020年12月

※日外アソシエーツ 図書内容情報BookPlusを参照

法政大学生協同組合書籍部より

<多摩キャンパス>

生協の書籍部を有効活用してください

2021年度も引き続き、法政大学生協ウェブサイトで教科書の受注・販売を行う予定です。未確定のこともありますが、皆さまへ教科書を確認に届けるべく努めていきます。オンラインでの購入でも組合員割引は適用されますので、生協に加入の上、ご利用ください。

店舗においては、各種専門書、就職・資格書、語学参考書など、皆さまの勉学研究活動を支援するための品ぞろえを心掛けています。その他、コミックや雑誌もあります。店頭にはない書籍・雑誌のお取り寄せも可能です。

加えて、各キャンパスの特性に合わせたフェアの開催、在学中に100冊読破を目指す「読書マラソン」など、さまざまな取り組みをしています。ぜひご利用ください。大学4年間で生協の書籍部を有効活用してほしいと願っています。

(多摩購買書籍部)



HOSEI 4月号

令和3年4月20日発行
第48巻第3号（通巻722号）

発行 法政大学 総長室 広報課
〒102-8160
東京都千代田区富士見2-17-1
TEL.03-3264-9240

協力 法政大学後援会

企画・制作協力 (株)日経BPコンサルティング

印刷所 図書印刷棟



■ Award

2020年度

自由を生き抜く実践知大賞 1

2020年度「自由を生き抜く実践知大賞」には大学憲章を体現するような実践の取り組みとして10件がノミネート。厳正な審査にて、大賞と大学憲章に連なる本学の理念などのキーワードを冠した4賞、オンライン投票による「よき師よき友が選ぶ実践知賞」の計6賞が選ばれました。ここでは、それぞれの受賞の取り組みを順に紹介します。

学びの課題解決賞

オンラインの利点を活かした「リアルタイム双方向コミュニケーション」を重視した各種取り組み（実践主体：情報科学部）

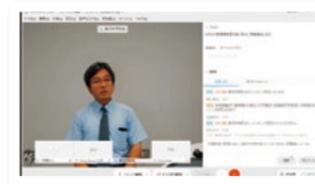


ノミネート理由・活動概要

情報科学部では、「リアルタイムでの双方向コミュニケーション」に強いこだわりを持ち、「オンラインだからこそできる」取り組みを実施してきました。

- 正課授業・試験
学部開講科目の8割以上をリアルタイムで実施し、春学期末には「リアルタイム期末試験」も実施。システムの操作に慣れない兼任教員には学部執行部を中心としたサポートチームを立ち上げて支援しました。
- オンライン窓口
a. 春学期・秋学期の授業開始～履修登録期間中の学部窓口
b. GBC（ガラス箱オフィスアワーセンター）などの学生サポート
- 教員による学生全員との面談
普段と異なる環境下における学生へのケアとして、オンライン個人面談などで健康状態や困っていることなどをヒアリングし、状況を把握しました。
- 2020年に実施した各種リアルタイムイベント
a. ゼミ単位での学位授与式と、保証人向け動画配信を実施
b. オンラインガイダンス（2回）、質問会
c. 保護者向け学部説明会（2回）
d. バーチャルSNSサービスを利用したオープンキャンパス

これらの取り組みは、対面実施ができないことへの「代替措置」ではなく、この情勢が収束した後は新たなスタンダードとして再構築していくことも視野に入れながら、取り組みをさらに改善していくつもりです。



ウェブ会議ツールを活用して質問に対応



学部説明会の様子

田中前総長*からの選定理由コメント

学部が一体となって「リアルタイムでの双方向コミュニケーション」に取り組んでくれたことは、今後の大学教育の質保証の上で重要なモデル。今後、全学の目標となるでしょう。コロナ禍で、本学職員の能力と精神力の高さ、深さを痛感しました。情報科学部だけではなく、緊急時における職員たちの実力と活躍を示す取り組みが多くありました。職員の努力と頑張りや発想の豊かさを知っていただくためにも、この取り組みに代表してもらって賞を授与します。

受賞者からの感想

実践知大賞を通して、他団体もコロナ禍で「実践知」を駆使したさまざまな活動を行っていることを知り、大きな刺激を受けました。同時に、そのような活動によって私たちの取り組みが支えられていることにも改めて気付かされました。こうして、相互に刺激を与え合うことで、また新たな「実践知」が生まれるのではないのでしょうか。私たちは今後も全学で手を携えて、新しい時代に相応しい教育研究・学生サービスを模索していきたいと考えています。
(情報科学部長 藤田 悟)

今後の展望

新型コロナウイルス感染症の拡大により、対面授業をオンライン授業に大きく方向転換するなど、大学教育は大きな変換点を迎えました。しかし、同時に、オンラインの学生支援や窓口業務、学生面談、保証人向け説明会など、遠隔からも容易にアクセスできる利点を生かしたアイデアも次々と生み出され、それを実践に移すきっかけとなりました。

実践知とは、環境変化に対して、我々が生き抜いていくための適応能力を育てていくことだと考えます。今回受賞した活動内容に甘んずることなく、2021年度からも、授業方法などに、新しいチャレンジを続けていきます。そして、将来を担う学生と共にチャレンジすることで、「法政で学ぶ実践知」をより強固にし、次世代に継承していきたいと考えています。

*田中優子総長は2021年3月にて任期満了により退任しました。

「自由を生き抜く実践知大賞」の各賞の詳細や表彰式の動画は、HOSEI PHRONESIS(<http://phronesis.hosei.ac.jp/>)をご覧ください。





法政

4月号

第48巻第3号 通巻722号

令和3年4月20日発行

発行 法政大学総長室広報課

一新、ほうせい茶。

法政大学の創設者、金丸鉄と伊藤修。
二人の出身地、大分県杵築市の茶葉を使った
法政大学オリジナル緑茶が誕生して三年。
茶葉の深味がより感じられる、スッキリとした味わい
となって生まれ変わりました。



お問い合わせ

株式会社エイチ・ユー 03-3264-9569

法政大学100%出資子会社

